

## 小野市入札指名停止基準

(指名停止)

- 第1条 市長は、入札参加資格者(注1)が別表第1又は別表第2に掲げる措置要件(以下「措置要件」という。)の一に該当するときは、小野市指名入札参加者審査会の議を経て、各別表の定めるところにより期間を定め、指名停止(注2)を行うものとする。
- 2 市長は、建設工事、調査委託、製造の請負及び物品の購入等(以下「工事等」という。)の契約のため、指名を行うに際し、前項の規定により指名停止を受けている入札参加資格者を指名しないものとする。
- 3 市長は、第1項の規定により指名停止を受けた入札参加資格者を現に指名しているときは、その指名を取り消すものとする。  
(下請負人及び共同企業体に関する指名停止)

第2条 市長は、前条第1項の規定により指名停止を行う場合において、当該指名停止について責を負うべき下請負人があることが明らかになったときは、当該下請負人について、元請負人と同期間の指名停止を併せ行うものとする。

- 2 市長は、前条第1項の規定により共同企業体について指名停止を行うときは、当該共同企業体の構成員(明らかに当該指名停止について責を負わないと認められる者を除く。)について、当該共同企業体と同期間の指名停止を併せ行うものとする。
- 3 市長は、前条第1項又は前2項の規定による指名停止に係る入札参加資格者を構成員に含む共同企業体について、当該入札参加資格者と同期間の指名停止を行うものとする。

(指名停止の期間の特例)

- 第3条 入札参加資格者が一の事案により措置要件の二以上に該当したときは、これらの措置要件に係る指名停止の期間のうち最も長いものを適用する。
- 2 入札参加資格者が次の各号の一に該当することとなった場合における指名停止の期間は、それぞれ別表第1又は別表第2に定める期間を2倍にして得た期間とする。

- (1) 指名停止の期間中又は当該期間の満了後1年を経過するまでの間に、当該指名停止に係る措置要件を掲げる別表第1又は別表第2の措置要件のいずれかに該当することとなったとき。ただし、次号又は第3号に掲げる場合は除くものとする。
  - (2) 別表第2・1の措置要件に係る指名停止の期間中又は当該期間の満了後3年を経過するまでの間に、当該指名停止に係る措置要件と同一の措置要件に該当することとなったとき。
  - (3) 別表第2・2又は3の措置要件に係る指名停止の期間中又は当該期間の満了後3年を経過するまでの間に、これらの措置要件のいずれかに該当することとなったとき。
- 3 市長は、入札参加資格者について、指名停止の前に情状酌量すべき特別の事由が明らかであるとき、又はその事由が指名停止の決定後明らかとなったときは、別表第1、別表第2及び前2項の規定により定めた指名停止の期間に2分の1を乗じて得た期間を指名停止の期間とすることができる。
- 4 市長は、入札参加資格者について、極めて悪質な事由が明らかであるとき若しくは入札参加資格者が極めて重大な結果を生じさせたと認められるとき、又は極めて悪質な事由が指名停止の決定後明らかとなったときは、別表第1、別表第2及び第2項各号の規定により定めた指名停止の期間を2倍にして得た期間を指名停止の期間とすることができる。
- 5 市長は、指名停止期間中の入札参加資格者が、当該事案について、責を負わないことが明らかになったと認めるときは、指名停止を解除するものとする。

(独占禁止法違反等の不正行為に対する指名停止の期間の特例)

第4条 市長は、別表各号に定めるところにより指名停止を行う際に、入札参加資格者等(注3)が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。)違反等の不正行為により次の各号の一に該当する場合(第3条第2項及び第4項の規定に該当する場合を除く。)の指名停止の期間は、当該各号の規定により算出した期間とする。

- (1) 談合情報を得た場合、又は市の職員が談合があると疑うに足りる事実を得た場合で、入札参加資格者等のうち契約権限を有する者から、当該談合を行っていないとの誓約書が提出されたにもかかわらず、当該事案について、別表第2・2又は3のいずれかに該当したときは、当該措置要件に定める指名停止期間を2倍にして得た期間とする。
- (2) 別表第2・2に該当する入札参加資格者等について、独占禁止法に係る確定判決又は確定した排除措置命令若しくは課徴金納付命令において、主導的事業者であることが明らかになったとき（前号の規定に該当する場合を除く。）は、当該措置要件に定める指名停止期間を2倍にして得た期間とする。
- (3) 別表第2・2に該当する入札参加資格者等について、独占禁止法第7条の2第7項の規定の適用があったとき（前2号の規定に該当する場合を除く。）は、当該措置要件に定める指名停止期間を2倍にして得た期間とする。
- (4) 入札談合等関与行為の排除及び防止並びに職員による入札等の公正を害すべき行為の処罰に関する法律（平成14年法律第101号）第3条第4項に基づく市長又は他の公共団体等の長による調査の結果、入札談合等関与行為があり又はあったことが明らかになった場合で、当該関与行為に関し、別表第2・2に該当する入札参加資格者等に悪質な事由（注4）があるとき（前各号の規定に該当する場合を除く。）は、当該措置要件に定める指名停止期間に1月を加算して得た期間とする。
- (5) 市又は他の公共団体等の職員が、競売入札妨害（刑法（明治40年法律第45号）第96条の6第1項。以下同じ。）又は談合（刑法第96条の6第2項。以下同じ。）の容疑により逮捕され、又は逮捕を経ないで公訴を提起された場合で、当該職員の容疑に関し、別表第2・3に該当する入札参加資格者等に悪質な事由（注4）があるとき（第1号の規定に該当する場合を除く。）は、当該措置要件に定める指名停止期間に1月を加算して得た期間とする。

2 市長は、別表第2・2に該当する入札参加資格者について、課徴金減免制度が適用され、その事実が公表されたとき（第3条第2

項第3号若しくは第4項又は第4条第1項各号の規定に該当する場合を除く。)は、当該措置要件に定める指名停止期間に2分の1を乗じて得た期間を指名停止の期間とすることができる。

(指名停止の期間の上限)

第4条の2 前2条の規定により得た指名停止の期間は36か月を限度とする。

(指名停止等の通知)

第5条 市長は、第1条第1項若しくは第2条各項の規定により指名停止を行い、第3条第3項若しくは第4項若しくは第4条第1項第4号若しくは第5号若しくは第2号の規定により指名停止の期間を変更し、又は第3条第5項の規定により指名停止を解除したときは、当該入札参加資格者に対し通知するものとする。ただし、市長が必要ないと認めるときは、この限りでない。

2 市長は、前項の規定により指名停止の通知をした場合において、必要に応じ当該事案の改善措置について報告を徴することができる。

(随意契約の相手方の制限)

第6条 市長は、指名停止期間中の入札参加資格者を随意契約の相手方としてはならない。ただし、やむを得ない事由があるときはこの限りではない。

(下請等の禁止)

第7条 市長は、指名停止期間中の入札参加資格者が市発注の工事等を下請することを承認してはならない。

(指名停止に至らない事由に対する措置)

第8条 市長は、指名停止を行わない場合において、必要があると認めるときは、入札参加資格者に対し、書面又は口頭で警告又は注意の喚起を行うことができる。

(補則)

第9条 この基準の運用に関して必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この基準は、平成15年4月1日から適用する。

附 則

この基準は、平成16年10月18日から適用する。

附 則

この基準は、平成19年4月16日から適用する。

附 則

この基準は、平成20年12月22日から適用する。

附 則

この基準は、平成25年1月17日から適用する。

附 則

この基準は、平成27年4月1日から適用する。

附 則

この基準は、令和元年5月14日から適用する。

別表第1 事故等に基づく措置基準

措 置 要 件	指名停止の期間
<p>(虚偽記載)</p> <p>1 市発注の工事等の契約に係る一般競争入札及び指名競争入札において、入札参加資格審査申請書、入札参加資格審査資料その他の入札前の調査資料に虚偽の記載をし、市発注の工事等の契約の相手方として不相当であると認められるとき。</p>	<p>当該認定をした日から 6か月</p>
<p>(過失による粗雑工事等)</p> <p>2 市発注の工事等の施工等に当たり、過失により工事等を粗雑にし、市発注の工事等の契約の相手方として不相当であると認められるとき</p>	<p>当該認定をした日から 3か月</p>
<p>3 市発注の工事等以外の県内公共工事等（注5）の施工等に当たり、過失により工事等を粗雑にしたとして、会計検査院の検査報告で指摘され、市発注の工事等の相手方として不相当であると認められるとき。</p>	<p>当該認定をした日から 2か月</p>
<p>(契約違反)</p> <p>4 市発注の工事等の施工等に当たり、別表第1・2に掲げる場合のほか、次に該当したために契約に違反し、市発注の工事等の契約の相手方として不相当であると認められるとき。</p> <p>(1) 2か月以上の履行遅滞があったとき。</p> <p>(2) 1か月以上2か月未満の履行遅滞があったとき。</p> <p>(3) 1か月未満の履行遅滞があったとき。</p> <p>(4) 次に該当し、再三指摘しても改善しないとき。</p> <p>ア 公害及び危険防止対策が不良のとき。</p> <p>イ 工程管理、資材管理若しくは労務管理が不良であるとき、又は監督員若しくは検査員の指示に従わないとき。</p>	<p>当該認定をした日から</p> <p>3か月</p> <p>2か月</p> <p>1か月</p> <p>3か月</p> <p>1か月</p>

措 置 要 件	指名停止の期間
(安全管理措置の不適切により生じた公衆損害事故)	
5 市発注の工事等の施工等に当たり、安全管理の措置が不適切であったため、公衆に死亡者若しくは負傷者を生じさせ、又は損害(軽微なものを除く。)を与えたと認められるとき。	当該認定をした日から
(1) 死亡者を生じさせたとき。	6 か月
(2) 負傷者を生じさせたとき。	3 か月
(3) 損害を与えたとき。	
ア 極めて重大な影響を及ぼす事故を生じさせたとき。	6 か月
イ 重大な影響を及ぼす事故を生じさせたとき。	3 か月
ウ その他事故を生じさせたとき。	1 か月
6 県内の一般工事等(注6)の施工等に当たり、安全管理の措置が不適切であったため、公衆に死亡者若しくは負傷者を生じさせ、又は損害を与えた場合において、現場代理人等が逮捕されるなど、当該事故が重大であると認められるとき。	当該認定をした日から
(1) 死亡者を生じさせたとき。	3 か月
(2) 負傷者を生じさせたとき。	2 か月
(3) 損害を与えたとき。	
ア 極めて重大な影響を及ぼす事故を生じさせたとき。	3 か月
イ 重大な影響を及ぼす事故を生じさせたとき。	2 か月
ウ その他事故を生じさせたとき。	1 か月
(安全管理措置の不適切により生じた工事等関係者事故)	
7 市発注の工事等の施工等に当たり、安全管理の措置が不適切であったため、工事等関係者に死亡者又は重傷者(注7)を生じさせたと認められるとき。	当該認定をした日から
(1) 死亡者を生じさせたとき。	4 か月
(2) 重傷者を生じさせたとき。	2 か月
8 県内の一般工事等の施工等に当たり、安全管理の措置が不適切であったため、工事等関係者に死亡者又は重傷者を生じさせたと認められるとき。	当該認定をした日から
(1) 死亡者を生じさせたとき。	2 か月
(2) 重傷者を生じさせたとき。	1 か月

別表第2 不正行為等に基づく措置基準

措 置 要 件	指名停止の期間
<p>(贈賄)</p> <p>1 入札参加資格者等が、次に掲げる者に対して行った贈賄（刑法第198条）の容疑により逮捕、書類送検又は起訴されたとき。</p> <p>(1) 市の職員に対するもの。</p> <p>(2) 県内の他の公共機関（注8）の職員に対するもの。</p> <p>(3) 県外の他の公共機関の職員に対するもの。</p>	<p>逮捕、書類送検又は起訴を知った日から</p> <p>12か月</p> <p>9か月</p> <p>6か月</p>
<p>(独占禁止法違反行為)</p> <p>2 業務に関し、独占禁止法第3条、第8条第1号又は第19条の規定に違反し、次に該当したとき。</p> <p>(1) 入札参加資格者等が、次に掲げる工事等に関する違反行為について、公正取引委員会から排除措置命令又は課徴金納付命令を受けたとき。</p> <p>ア 市発注の工事等に関するとき。</p> <p>イ 県内の一般工事等に関するとき。</p> <p>ウ 県外の一般工事等に関するとき。</p> <p>(2) 入札参加資格者等が、次に掲げる工事等に関する違反行為について、公正取引委員会から刑事告発を受け、又はこれにより逮捕されたとき。</p> <p>ア 市発注の工事等に関するとき。</p> <p>イ 県内の一般工事等に関するとき。</p> <p>ウ 県外の一般工事等に関するとき。</p>	<p>当該認定をした日から</p> <p>12か月</p> <p>8か月</p> <p>4か月</p> <p>18か月</p> <p>12か月</p> <p>6か月</p>

措 置 要 件	指名停止の期間
<p>(競売入札妨害又は談合)</p> <p>3 入札参加資格者等が、競売入札妨害又は談合の容疑により、次に該当したとき。</p> <p>(1) 市発注の工事等に関し、逮捕又は書類送検されたとき。</p> <p>(2) 県内の公共工事等に関し、逮捕、書類送検又は起訴されたとき。</p> <p>(3) 県外の公共工事等に関し、逮捕、書類送検又は起訴されたとき。</p>	<p>逮捕又は書類送検を知った日から 18か月</p> <p>逮捕、書類送検又は起訴を知った日から 12か月</p> <p>6か月</p>
<p>(補助金の不正受給を目的とした不正行為)</p> <p>4 業務に関し、入札参加資格者等が、補助金等（注9）の不正受給を目的とした不正行為により、補助事業等（注10）又は間接補助事業等（注11）に関し、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）第29条若しくは第30条又は詐欺（刑法第246条）若しくは電子計算機使用詐欺（刑法第246条の2）の容疑により逮捕、書類送検又は起訴されたとき。</p> <p>(1) 市の事業等に関するとき。</p> <p>(2) 県内の自治体の事業等に関するとき。</p>	<p>逮捕、書類送検又は起訴を知った日から</p> <p>12か月</p> <p>9か月</p>

措 置 要 件	指名停止の期間
<p>(暴力団関係)</p> <p>5 入札参加資格者に関し、警察の確認・通報等により、次に該当することが明らかになったとき。</p> <p>(1) 暴力団員が役員として入札参加資格者の経営に関与（実質的に関与している場合を含む。）しているとき。</p> <p>(2) 入札参加資格者が、暴力団員を相当の責任の地位にある者（注12）として使用し、又は代理人として選任しているとき。</p> <p>(3) 入札参加資格者又はその役員その他経営に実質的に関与しているか、若しくは相当の責任の地位にある者（以下「役員等」という。）が、自社、自己若しくは第三者の利益を図り、又は第三者に損害を与える目的をもって、暴力団員の威力を利用したこと。</p> <p>(4) 入札参加資格者又はその役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金的援助等の経済的便宜を図ったこと。</p> <p>(5) 入札参加資格者又はその役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難される関係を有していると認められること。</p>	<p>当該認定をした日から</p> <p>12か月以上その事実がなくなったと通報があるまで</p> <p>6か月以上その事実がなくなったと通報があるまで</p> <p>6か月以上その事実がなくなったと通報があるまで</p> <p>3か月以上その事実がなくなったと通報があるまで</p> <p>6か月以上その事実がなくなったと通報があるまで</p>

措 置 要 件	指名停止の期間
<p>(建設業法違反行為)</p> <p>6 建設業法（昭和24年法律第100号）の規定に違反し、次に該当したとき。</p> <p>(1) 入札参加資格者等が、次の工事等に関し、建設業法違反の容疑により逮捕、書類送検又は起訴されたとき。</p> <p>ア 市発注の工事等に関するとき。</p> <p>イ 県内の一般工事等に関するとき。</p> <p>ウ 県外の一般工事等に関するとき。</p> <p>(2) 入札参加資格者が、次の工事等に関し、建設業法第28条及び第29条の規定により、建設業許可の取消し又は営業の停止処分を受けたとき。</p> <p>ア 市発注の工事等に関するとき。</p> <p>イ 県内の一般工事等に関するとき。</p> <p>ウ 県外の一般工事等に関するとき。</p> <p>(3) 入札参加資格者が、次の工事等に関し、建設業法第28条の規定により、指示処分を受けたとき。</p> <p>ア 市発注の工事等に関するとき。</p> <p>イ 県内の一般工事等に関するとき。</p> <p>ウ 県外の一般工事等に関するとき。</p>	<p>当該認定をした日から</p> <p>9か月</p> <p>8か月</p> <p>4か月</p> <p>6か月</p> <p>5か月</p> <p>3か月</p> <p>3か月</p> <p>2か月</p> <p>1か月</p>

措 置 要 件	指名停止の期間
<p>(不正又は不誠実な行為)</p> <p>7 入札参加資格者が、業務に関し、不正又は不誠実な行為をし、次に該当したとき。</p> <p>(1) 入札参加資格者又はその役員が、次に掲げる工事等において、暴力行為等処罰に関する法律（大正15年法律第60号）の規定に違反し、逮捕、書類送検又は起訴されたとき。</p> <p>ア 市発注の工事等に関するとき。</p> <p>イ 県内の一般工事等に関するとき。</p> <p>(2) (1)に規定する者以外の入札参加資格者等が次に掲げる工事等において、暴力行為等処罰に関する法律の規定に違反し、逮捕、書類送検又は起訴されたとき。</p> <p>ア 市発注の工事等に関するとき。</p> <p>イ 県内の一般工事等に関するとき。</p> <p>(3) 入札参加資格者等が、業務に関し、脱税行為により逮捕、書類送検又は起訴されたとき。</p> <p>(4) 入札参加資格者等が、業務関連法令等（注13）に重大な違反（注14）をしたとき。</p> <p>ア 市発注の工事等に関するとき。</p> <p>イ 県内の一般工事等に関するとき。</p> <p>(5) 入札参加資格者等が、県内において自動車の保管場所の確保等に関する法律（昭和37年法律第145号）違反により逮捕、書類送検又は起訴されたとき。</p>	<p>当該認定をした日から</p> <p>9か月</p> <p>8か月</p> <p>6か月</p> <p>5か月</p> <p>6か月</p> <p>4か月</p> <p>2か月</p> <p>2か月</p>

措 置 要 件	指名停止の期間
<p>(その他)</p> <p>8 別表第1及び別表第2・1から7までに掲げる場合のほか、入札参加資格者等が次に該当したため、市発注に係る工事等の契約の相手として不相当であると認められるとき。</p> <p>(1) 入札参加資格者又はその役員等が禁こ以上の刑に当たる犯罪の容疑により逮捕、書類送検若しくは起訴され、又は禁こ以上の刑若しくは刑法（明治40年法律第45号）の規定による罰金刑を宣告されたとき。</p> <p>(2) 入札参加資格者が金融機関から取引停止となったとき。</p> <p>(3) 入札参加資格者等が、市発注工事等の指名競争入札で正当な理由なく入札に参加しなかったとき。</p> <p>(4) 入札参加資格者等が、競争入札に際し、担当職員の指示に従わなかったとき。</p> <p>(5) 入札参加資格者等が、競争入札に関して不誠実な行為をしたとき。</p> <p>(6) 市発注に係る工事等の受注者又はその下請人が暴力団員等から不当な介入を受けたにもかかわらず、発注者への報告を怠り又は警察に届けなかったとき。</p> <p>(7) その他市長が、小野市指名入札参加者審査会の議を経て、指名停止の措置を必要と認めたとき。</p>	<p>当該認定をした日から</p> <p>6か月</p> <p>取引再開まで</p> <p>1か月</p> <p>1か月</p> <p>3か月</p> <p>3か月以上</p> <p>18か月以内</p>

- (注 1) 入札参加資格者とは、小野市が発注する建設工事又は製造の請負、物件の買入れ等の指名競争入札に参加する者として登録されている者をいう。
- (注 2) 指名停止とは、一定の要件に該当するため、建設工事等を受注させるにふさわしくない入札参加資格者について、市長が一定の期間、指名の対象外とすることを定める措置をいう。
- (注 3) 入札参加資格者等とは、入札参加資格者、その役員（取締役、会計参与、監査役、執行役、理事、監事その他これらに準ずる者をいう。）又はその使用人をいう。
- (注 4) 悪質な事由があるときとは、入札参加資格者等が当該工事等発注者の職員に対して不正行為の働きかけを行った場合等をいう。
- (注 5) 公共工事等とは、国、地方公共団体及びこれらの外郭団体の発注する工事等をいう。
- (注 6) 一般工事等とは、小野市発注以外の公共工事等及び民間工事等をいう。
- (注 7) 重傷者とは、傷病程度が治療 30 日以上 of 傷害を負った者をいう。
- (注 8) 公共機関とは、収賄等（刑法第 197 条から第 197 条の 4）が成立する全ての機関（国の機関、地方公共団体、公社等）をいう。
- (注 9) 補助金等とは、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和 30 年法律第 179 号）第 2 条第 1 項に規定されるもの又は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 232 条の 2 に基づく現金的給付をいう。
- (注 10) 補助事業等とは、補助金等の交付の対象となる事務又は事業をいう。
- (注 11) 間接補助事業等とは、国以外のものが国から補助金等の交付を受け、それを財源として交付する給付金の対象となる事務又は事業をいう。
- (注 12) 相当の責任の地位にある者とは、役員以外で業務に関し監督責任を有する使用人のことをいう。
- (注 13) 業務関連法令等とは、次のものをいい、これらの業務関連法令

に違反する事由があっても、公衆損害事故、工事等関係者事故等別に措置要件で定めているものは、別表 2・7（4）による指名停止措置の対象とならない。

- ① 労働基準法(昭和 22 年法律第 49 号)、労働安全衛生法(昭和 47 年法律第 57 号)等の労働者使用関連法令
- ② 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和 45 年法律第 137 号)、騒音規制法(昭和 43 年法律第 98 号)等の環境保全関連法令
- ③ 建築基準法(昭和 25 年法律第 201 号)等の建築関連法令
- ④ 刑法、道路交通法(昭和 25 年法律第 201 号)等の業務に関する規定

(注 14) 重大な違反とは、当該法令違反容疑で逮捕、書類送検又は起訴されたときとする。

様式第1号（第4条関係）

第 年 月 日 号

所在地  
商号又は名称 様  
代表者名

小野市長 印

指名停止通知書

この度、貴が（の） ① ことは、誠に遺憾である。  
よって、下記のとおり指名停止を行うこととしたので通知する。  
今後はかかる事態が生ずることのないよう十分注意されたい。  
②（今後はかかる事態が生ずることのないよう十分注意するとともに、今後の改善措置の詳細について報告されたい。）

記

- 1 指名停止の期間 ③
- 2 指名停止の理由 ④

（注）

- 1 ①には、措置要件に該当する事実を簡明に記載する。
- 2 ②は、第4条第2項の適用がある場合に使用する。
- 3 ③には、指名停止の期間の始期及び終期を記載する。
- 4 ④には、措置要件に該当する事実について、発生日時、場所、概要等を記載する。

様式第2号（第4条関係）

第 年 月 日

所在地  
商号又は名称 様  
代表者名

小野市長 印

指名停止期間変更通知書

先に 年 月 日付 第 号をもって貴 の指名停止  
を行った旨を通知したところであるが、この度、下記のとおり当該指名停止の期間  
を変更したので通知する。

記

- 1 従前の指名停止の期間
- 2 変更後の指名停止の期間
- 3 変更の理由

様式第3号（第4条関係）

第 年 月 日  
号

所在地  
商号又は名称 様  
代表者名

小野市長 印

指名停止解除通知書

先に、 年 月 日付 第 号をもって貴 の指名停止  
を行った旨を通知したところであるが、この度、当該指名停止を解除したので通知  
する。